

優秀賞

(子どもの部)

「さっちゃんのまほうのて」を読んで

第三日暮里小学校 三年

草柳 奈緒子

柳田先生こんにちは。わたしは今まで障害の子と会ったことがあまりないのでこの本を見てちょっとふしぎだなと思ってどんな生活をしてるのか知りたいし、だれとでも仲良くしたいと思って読んでみることにしました。

さっちゃんは生まれつき右手に五つの指がないけれど、さっちゃんがけんかをして自分の気持ち伝えて指のことを分かってもらうお話です。

わたしは、本の絵を見て指がないことがとても悲しいんだなと感じました。でもお父さんが、「さちこのではまるでまほうのてだね。」と言ってくれ

て、わたしもさっちゃんの手は世界に一つしかなくてまほうの手だなと感じました。

わたしが心にのこった場面は、「さっちゃんもおかあさんになれるかな。」という場面です。理由は、その後にお父さんが「だれにもまけないおかあさんになるぞ。」と言って、さっちゃんがとてもうれしそうで指がなくてもお母さんになれるんだ。とさっちゃんに自信がもててよかったなと思ったからです。

私が体けんしたことは、私のおじいちゃんはびょう気で足が一本しかないけど、私たちがかぎをなくした時に一こしかない足でだんさをおりてかぎをあけてくれたことです。すごいな、だんさがあつたのにがんばったんだ。と思いました。

私がこの本で学んだことは、びょう気の人でも

へんじゃないかと思う、はずかしくないという気持ちを持つことを学びました。

わたしは、これからけがをしたり困っている人や障害の人がいたら、助けたりおうえんしたり力になりたいです。

柳田邦男先生からのメッセージ

〈優秀賞〉

草柳 奈緒子さんへ

絵本『さっちゃんのまほうのて』は、生まれつき右手の指がない女の子さっちゃんが、障害に負けないで生きる力を身につけていくかというお話ですね。お父さんの愛情深い言葉かけが、とても大きな力になります。

くさやなぎさんは、障害のある子のことを知らないで、きちんと理解して仲良くしたいという思いで、この絵本を読んだんですね。そういう思いで本を読むのって、とても素晴らしいです。

くさやなぎさんが感動したのは、さっちゃんの悲しみと不安な気持ちを吹きとばしてくれたお父さんの言葉なんですね。

お母さんが次の赤ちゃんを産んだのを見て、「さっちゃん、ゆびがなくても おかあさんに なれるかな」と、お父さんに聞くと、お父さんは、こう言ったのですね。

「なれるとも、だれにもまけないおかあさんになれるぞ。」

「それにね さちこと てを つないで あるいていると、とっても ふしぎな ちからが さち

このてから やってきて、おとうさんのからだ
いっぱいになるんだ。さちこのては まるで
まほうのてだね。」

さっちゃんがとてもうれしくなったので、くさ
やなぎさんも、「さっちゃんに自信がもててよかつ
た」と喜んだのですね。

それだけでなく、自分のおじいちゃんが病気で
片足しかなくても、ドアを開けてくれるやさしさ
を見せてくれた経験を、さっちゃんのお話に重ね
合わせて、障害や病気のある人をへんだという目
で見ないことを学んだという。そして、そういう人
がいたら、「助けたり応援したり力になりたい」と、
心に決めたのですね。くさやなぎさん、一冊の絵本
から大きく成長しましたね！